

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業

令和4年度に終了した試験研究課題の事後評価結果及び行政における研究成果の行政施策・措置への反映について

課題 番号	試験研究課題名 及び実施研究機関	実施 期間 (年度)	研究概要	評価所見	総 括 評 価	研究成果の行 政施策・措置へ の反映
21453 799	被覆を必要とする 農薬の使用時に おけるリスク低減に 関する研究 【実施研究機関】 農薬リスク低減コ ンソーシアム ・(国研)農業・食品 産業技術総合研究 機構 ・高知県農業技術 センター ・徳島県農林水産 総合技術支援セン ター	R3～ R4	(背景・目的) クロルピクリン剤については、土壌病虫害を防除する上で有効な農薬であり、国内各地で使用されているが、刺激性があり、農薬使用時に適切な被覆が行われなかったこと等を原因とするクロルピクリン剤による事故が毎年報告されている。日本では、ほ場が住宅地近辺に存在することも多く、これらの地域では農業者自身だけでなく、周辺住民に被害が生じることがないよう、同剤の使用時に被覆を適切に行うことが極めて重要となる。 同剤の使用によるリスクを更に低減する対策を検討し、また、適切な取扱いの指導や規制の検討に活用するため、被覆資材の種類や環境条件による同剤の揮散防止効果等の科学的知見等を収集する。 (研究項目) ① 農業用被覆資材の厚さや材質の揮散防止効果への影響評価と解析 ② 高知県の灰色低地土における揮散防止効果等への影響に関する実証と経済的評価 ③ 徳島県の砂質土壌における揮散防止効果等への影響に関する実証と経済的評価	・被覆資材の種類や環境条件によるクロルピクリン剤の揮散防止効果等の科学的知見として、ガスバリアー性フィルムの気密性の高さと高温期や砂質土壌における効果が顕著であること等が確認された。慣行フィルムと比較したときのガスバリアー性フィルム使用による揮散量低減の効果は、土壌のタイプにより異なり、クロルピクリンの吸着性が高い土壌では、効果の差が小さく、活用方法の工夫が必要である。 ・ガスバリアー性フィルムの使用によりクロルピクリンの処理量を低減できる可能性が示唆されたが、使用量を低減しつつ防除効果を維持することが可能か更なる試験が必要である。また、各資材、土壌くん蒸剤の使用量の組合せ等によるリスク低減がわかるようなリーフレットやチラシ等を作成し、周知活動も必要と考える。	B	・普及啓発への活用を検討・実施

＜総括評価の説明＞

- A: 研究目標を達成し、研究成果を行政施策・措置に十分に活用できる。
- B: 研究目標の達成に至っていない部分もあるが、行政施策・措置に活用できる成果が得られている。
- C: 研究目標はやや達成されておらず、行政施策・措置への活用には更なる成果を要する。
- D: 研究目標の達成は不十分であった。